

春一番

「春」という言葉にどんなイメージをお持ちでしょうか？

花粉症、黄砂、別れを連想する方もいらっしゃると思いますが、桜、爽やか、明るい、心地よい、出会い、芽吹き、新しいなど、どちらかと言うと良いイメージをお持ちの方が多いと思います。



その「春」の訪れを告げる「春一番」が発表される日が近づいています。

近畿地方における「春一番」の発生日は

- ①立春(2月4日ごろ)～春分(3月21日ごろ)までに、
- ②低気圧が日本海にあって、
- ③最大風速 8m/s 以上の南よりの風が吹き、
- ④最高気温が平年値より高い(または前日値より高い)など、

大阪管区气象台ではこれらの目安を概ね満たした最初の日を基本として総合的に判断しているそうです。

「春一番」の発表基準は地域によって異なるようですし、観測されない年もあるそうです。北海道、東北、沖縄地方では発表されていません。



壱岐市は「春一番」発祥の地としています。

『春先に吹く強い南風のことを「春一番」といい、今では気象用語にもなっていますが、実はこの言葉の発祥の地は壱岐です。1859年(安政6年)に、この強い風を受けた影響で、大勢の地元漁師が遭難しました。

そのことがあり、海と共生する壱岐の人々に自然の怖さを忘れないようにとの思いを込めて昭和62年、郷ノ浦港入口の元居公園に船の形をした「春一番の塔」が建てられました。近くには遭難者の慰霊碑も建てられています。』



「春一番」が吹くと暖かい南風で気温が上昇します。雪どけによる洪水や強風による災害、雪が多い地方では雪崩が起こりやすくなります。

一方、その翌日は西高東低の冬型の気圧配置となり、強い北風が吹いて寒さが戻り突風を伴うことも珍しくないようです。

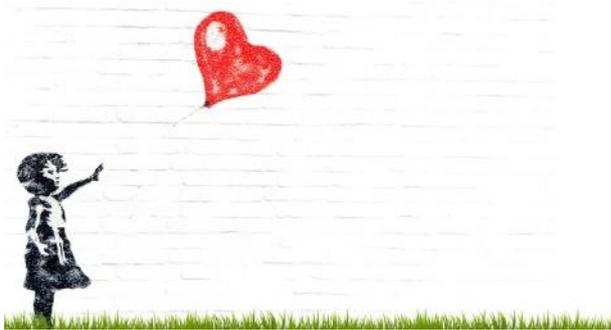


「春一番」という言葉の響きからはイメージしにくいですが、強風が吹き荒れる「春

の嵐」として気象や防災関連では要注意です。

海難事故などは、海上保安庁「118番」と覚えていてくださいね。

エルニーニョ監視速報（令和5年1月11日、No.364）では、現在ラニーニャ現象が続いていますが今後ラニーニャ現象は終息に向かい、冬の終わりには平常の状態となる可能性が高く（70%）、春はエルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続く可能性が高い（80%）としています。



暦の上ではもう春なのに
まだまだ寒い日が続きます。

<参考>

気象庁 <https://www.data.jma.go.jp/>

大阪管区気象台 <https://www.jma-net.go.jp/osaka/>

海上保安庁 JAPAN COAST GUARD <https://www.kaiho.mlit.go.jp/>

壱岐観光ナビ <https://www.ikikankou.com/>

pixabay <https://pixabay.com/ja/>